

防災ニュース 第 4号



あなたはどようする？（4）

～ 大地震シミュレーション ～

皆様こんにちは。本年3月16日23時36分頃、福島県沖を震源とするマグニチュード7.4、最大震度6強の地震が発生しました。東日本大震災の余震とされ、今後20年位は同程度の余震があり得るといふ専門家もいます。

もし今、大地震が発生したら、あなたはどのように行動しますか？自分の身に置き換えて想像してみましょう。（出典：東京都発行「東京防災」）（前号の続き）

【 避難する時の留意点 】

出火の原因をつくらない

阪神淡路大震災の死因の10%が焼死ということからもわかるように、初期消火はとて重要です。火災を発見した場合は、火が小さいうちに消火器や水バケツなどで消火します。ただし、消火活動では自分の身の安全が第一。炎が天井に届くなど、身の危険を感じたら消火しようとせず、周囲にも知らせるすぐに避難します。

避難に際しては、出火の原因をつくらないことが大切です。

ブレーカーを落とす

倒れた家財の中にスイッチが入った状態の電気製品があると、通電再開後、火災発生のおそれがあります。

安否メモを残す

避難する際には、自分や家族の安否情報、避難先などの貼り紙を残し、鍵をかけて移動します。

ガスの元栓を閉める

ガス管やガス器具が壊れていると、ガスが復旧したときにガス漏れを起こして爆発のおそれがあります。

伝言板・SNSで連絡する

電話が通じなくなることを想定し、連絡手段を複数用意しましょう。SNSも活用できます。

【 安全避難チェックポイント 】



人混みではパニックに注意

人混みの中で突然走り出すなどの行動がパニックを引き起こし、事故になる危険も。不正確なうわさや情報の流布によるパニックを防ぐために、周りの人に配慮した行動を心がけます。

地下では壁伝いに移動

停電した地下街は、パニックが起こる危険性が高い場所のひとつ。地下街には60mごとに非常口が設置されているので、一つの非常口に殺到せず、壁伝いに歩いて避難します。

マンションのベランダ避難

ベランダやバルコニーには、火災発生時など、いざという時に蹴破って移動できる隣戸との間にある「隔て板」、下階避難用はしごを収納した「避難ハッチ」などが設けられています。

火災時は煙から逃れる

火災の煙は命を落とす危険も。ハンカチなどで口・鼻を覆うなど、できるだけ低い姿勢で、煙を吸わないようにして移動。煙で前が見えない場合は壁伝いに避難します。



海辺の津波避難場所を知る

発災後はすぐに近くの高台や津波避難ビルに移動します。それがない場合には、より高い建物へ。監視員やライフセーバーがいる海水浴場では、その指示に従って行動します。



川に津波が押し寄せる前に

津波の心配があるのは、海のそばだけではなくではありません。津波は川下から川上に向かって押し寄せてきます。川の流れに対して直角方向に素早く避難します。

落下物から身を守る

住宅地では屋根瓦やエアコンの室外機、ガーデニング用プランターなどの落下で負傷したり、命を落とす危険も。繁華街やオフィス街では、看板やネオンサイン、ガラスの破片などの落下に注意しましょう。

切れた電線には触らない

切れたり、垂れ下がっている電線は、電気が通っている場合があります、感電の危険があります。近づかず、絶対に触らないこと。また、電線に樹木や看板などが接触している場合も同様です。

ひび割れたビルは危険

ひび割れたビルから落下する外壁やタイルなどによって、ケガをしたり命を落とす危険もあります。ビルの基本構造である柱や耐震壁などがひび割れると倒壊の恐れがあるので、近寄らないこと。

夜間の避難の注意点

夜間の避難は、見通しが悪く、転倒や側溝への転落などの危険が伴います。広い道路を通行するなど、特に注意が必要。停電時の夜間に避難する場合は懐中電灯を使い、目視確認を行いながら注意して避難しましょう。

冬場の避難の注意点

冬場の避難は、寒さで体調を崩しがちです。体調を崩さないように防寒対策を充分に取ることが重要です。また、冬はストーブなどの使用により、火災発生の危険があるので、火災にも注意しながら避難しましょう。

【 避難のタイミング 】

避難の判断によって、生死が分かれる場合があるということを覚えておきましょう。避難するかしないかは人任せにせず、ラジオ・テレビや行政などからの情報、自分の目と耳で確かめた情報をもとに判断します。

自宅の安全が確認できれば、在宅避難に努めましょう。家族が離れ離れになった時は、自宅に残す安否メモや電話会社が提供する災害用伝言サービスを活用して落ち合う場所を確認します。

以 上